

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295800078		
法人名	特定医療法人 駿甲会		
事業所名	グループホーム実夢静波		
所在地	静岡県牧之原市静波203-1		
自己評価作成日	平成29年7月10日	評価結果市町村受理日	平成29年8月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/zz/index.php?action_kounyo_u_detail_2016_022_kani=true&lievosvoCd=2295800078-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年7月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型施設の名前の通り、地域交流に力を入れた施設運営を心掛けております。入所後身体的に負担が大きくなってきても関連施設との連携により長く安心して生活が出来ます。認知症は意思疎通が困難で笑顔が少なくなりがちですが、過去の生活歴を考慮しながらご利用さんの残存能力を生かし笑顔が一つでも多くみられるように配慮しております。また入所に関係なく介護にかかわる様々な相談窓口としての施設運営を目指し、施設から地域へ、地域から施設へと地域密着型施設でしかできない活動発展に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関先の花壇には「ペンタス」「ジニア」「バーベナ」「日日草」「ブラッキカム」と植物園のように表示された様々な花々が植えられ、大きな肥料袋が鎮座する様子からは花々への愛情が伝わります。一昨年交替の管理者は町内会長や班長へと挨拶に出向き、また通勤や通院介助に車を使わず「徒歩で」を旨として薬局やスーパー、郵便局にも立ち寄り、近隣住民と会話をもつなかで「介護のことで困ったらいつでも相談ください」と都度伝え、花壇の苗木を譲ってもらうまでに交流が発展しています。来月の花火大会でも駐車場を開放して西瓜やアイスを配ることを企画しており、日々親交を深めていることが覗えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念 2295800078					
1	(1)	○理念の共有と実践 グループホーム実夢静波	「ただ介護する」ということに留まらなくようにしています 地域密着型施設とは何を指すための施設なのかを話し合い各フロアに提示し各職員が常に、繰り返し確認できるようにしています。	玄関や事務所の掲示で意識づけを図り、職員は「待てる」「声かけが優しい」といった点に著しい成長が見られます。理念が「本人の意思の尊重～」ならば「家に帰りたい」と訴える利用者の言葉を重く受け止めるとして、改めて理念や利用者の想いに立ち返る機会を得たこともあります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの来訪を積極的に取り入れ地域にもこの施設がどのような施設なのかを発信しています。	管理者は町内会長や班長へと挨拶に出向き、また通勤や通院介助に車を使わず「徒歩で」を旨として薬局やスーパー、郵便局にも立ち寄り、近隣住民と会話もち「介護のことで困ったらいつでも相談ください」と都度伝え、花壇の苗木を譲ってもらうまでに親交が発展しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて施設発行の新聞に活動風景の写真をふんだんに掲載し活動状況をお知らせしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営指針会議を開催し、意見交換を交わしています。地域での心配事や、介護保険の制度の質問も話し合われます。	運営推進会議の日はボランティアによる演芸を企画し、利用者は1階フロアに、会議は2階でと分け、雰囲気や様子を知ってもらえながらも落ち着いて進行ができます。介護度や年齢の平均値の一覧等資料も丁寧に用意し、出席簿は署名形式で記録をとることからも手堅さが伝わります。	町内会から2名、民生委員、地域包括支援センター、市社協とメンバーが豊富なことから、さらに利用者による一言挨拶や警察署や薬局からゲストスピーカーを招聘しての発展を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて行政や包括支援事業者の方々にも参加をいただいています。目まぐるしく変化していく情報を共有しています。	市役所からの運営推進会議への出席は地域包括支援センターとの交替制となり回数は減ったものの、介護相談員にも来訪してもらっており、窓口利用者と同様で出向くことも意識して取り組み、協力関係を築けるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしています。定期的な話し合いで分かりにくい身体拘束の行為についても話し合っています。	個人面談では必ず話し合い、年1回の法人本部研修会には全職員が参加しています。昨年カメラも設置され、また実際に拘束が必要な症状となったときは系列の介護老人保健施設に移設ということが家族と合意できていて、事業所で「おこなう」ことはない仕組みを作っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為はあってはならない行為です。施設内にカメラを設置しています。管理者が厳しくチェックしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議で行政から権利擁護の説明をいただいています。独居暮らしの高齢者が困らないように学習しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所後に「こんな話は聞いていない」など施設と、ご利用者さんで揉めてしまうのは入所前の説明不足によるものです。細かなことでもご利用者さんの立場になり説明をしています。またそれが一番揉めてしまうことを回避できる近道です。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に何気ない会話でもなるべく家族とお話をするように心がけています。何気ない会話から家族が抱えている不安や、施設に対する思いも確認できる時があります。	こづかいを預かっていることで減れば連絡を取り合う必要もあり、全く会話が無いという月はなく、「宜しく頼みたい」という声以外の事柄は事業所に届いていません。実夢静波ニュースは毎月発行していて、カラー写真満載で暮らし向きが一目で分かります。	暮らしぶりや健康、医療関係の変更等、書面で毎月知りたいという要望が家族にあるようです。一度検討ください。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談にて介護報酬の話や処遇改善金について話し合う機会を設けています。	食事、レク、環境美化、実夢ニュース、防災、運推、修繕と係担当を定めるなか、管理者の「これで調べたら」「こんなこと聞いたよ」との投げかけに、職員から「こうしたい」「ああしたい」が挙がる意欲が満ちてきており、管理者も手ごたえを感じています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「人事考課」を導入し各職員が目標を計画し、業務にやりがいや考える力を養っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部が開催している会議に参加し、職員のスキルアップを図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のサービス事業所連絡会に参加し意見交流の場を設けています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には家族の面談を密に行い施設入所への理解を深めています。納得してご入所していただかないと後々困ることが多くなります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずご家族が抱えている不安にしっかり耳を傾け施設で取り込めることやすでに取り組んでいることを話し合い関係づくりにつとめています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談＝入所ではなく、本人の家族の置かれている状況を把握し、場合によっては他のサービスの可能性についても親身になり相談を受けております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理を一緒に作ることや、買い物のお手伝いをしていただくなど一緒に出来ることは一緒に行います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な面会の際にもなるべく家族と会話をするようにこころがけ、最近の様子などをお知らせするようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方や、それまでのかかりつけ医との関係をなるべく切ることがないようにできる限りの支援を続けています。	マラソン仲間が入替わり立ち代わり訪れる利用者は介護度が下がり、在宅復帰とともにマラソンに打ち込めることを嬉しそうに話してくださいました。居室のカレンダーに晴れなら赤丸、雨なら青丸をつけたり、帰宅願望がテレビを居室に入れたこと(TV鑑賞)で落ち着いた例もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の活動をする場面を設け、ご利用者同士が交流できるように配慮しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も遠慮なく声掛けしていただけるように関係づくりに力を入れています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者さん一人一人に担当職員を配置し、ご利用者さんの意向の把握に努めています。その後スタッフ会議などで各職員が解決できない問題は話し合い解決できるような環境を整えています。	認知症の実践者研修に現在2名が受講中で総計5名となる充実ぶりですが、それには「介護に温度差をなくしたい」「エビデンスを確かなものに」「認知症の構造への理解を共通に」といった管理者の想いが反映されていて、理念にもある「本人の意思の尊重～」に尽力をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に事前訪問をし、本人の意向や趣向を取り入れたサービス展開に力を入れています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の事前調査にてこれまでの生活スタイルをなるべく崩さないように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当職員がスタッフ会議などで意見交換を行い。それぞれの職員が忌憚のない意見交換が行えるように配慮しています。	スタッフ会議で課題となっていることや変化について出し合うことで情報を摺合せ、各ユニットの計画作成担当者2名がベースをつくったうえで介護支援専門員が集約または助言をおこない作成に至っていて、「皆で協働する」ことが叶っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細なことでも連絡ノートを活用して問題点を即座に改善できるよう努力しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決まったマニュアルでの施設生活の提供をするのではなく個々の状況に合わせた過ごし方を提供しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議やボランティアさんを活用し本人の残存能力が発揮できるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にかかっていたかかりつけ医や薬剤師にアドバイスを受けながら医療援助を受けています。	入居にあたり家族が協力くださるようお願いしたいとありますが、現在は事業所で通院介助をおこなっています。近い協力医には散歩コースとして楽しみながら向かい、日頃の状態把握が密なことから医師との連携もスムーズです。家族への報告方法は其々の意向に副っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度看護師に訪問していただき、健康の相談に乗っていただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院と密に連絡を取りながらとにかく心配事があるときにはすぐに相談できるように配慮しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に重度化した際の対応について十分話し合い、当施設でできることや、関連施設の活用など説明しています。かかりつけ医にも同様の説明をおこない、医師の考えも参考にしながら家族への対応を考えています。	食事ができなくなった、座位が保てないといった状態になれば退去となることは家族と合意形成をおこなっており、ここ2年では、グループホームでの集団生活の維持が難しくなった利用者3名が介護老人保健施設、療養型に移設しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の勉強会で緊急時の対応について勉強しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施しています。当施設にはスプリンクラーの設置もあり、法人内でも防災についての会議や研修を頻繁に行っています。	法定訓練のほか、夜間に抜き打ちでおこなうこともあります。管理者が夜勤者に「今地震がきたらどうする?」「呼吸が止まりそうな利用者がいたら?」「電気が消えたら?」と尋ね、具体的な段取りを確認して職員に落とし込んでいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ会議などで個人情報の取扱いについての重要性を十分に周知させ、職員一同個人情報の重要性に意識を持たせています。認知症で意思疎通が困難なご利用者にも人格があることを忘れず常に意識しています。	リビングから開閉が見えてしまうトイレには脱衣スペースからも入ることができたり、羞恥心に配慮してカーテンが取り付けあつたり等、ハード面のプライバシー確保が見られ、また職員の態度や言葉遣いも丁寧かつ朗らかで安心できます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々のご利用者さんに担当職員を配置させ、ご利用者さんの自己決定や、自己表現できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務にブレーキをかけることがないように「今何ができるのか？」を常に考えご利用者さんの状態や天気や季節に応じてできることを考えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容は人としての動作では基本中の基本です。ご利用者が自ら整容するのは困難なため、職員が声掛けしながら丁寧に整容しています。尚服についても可能であれば一緒に買い物に出かけたり、着る服についても自ら選んでいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者さんの一番の楽しみは食事といっても過言ではありません。施設では外食の機会を多く設けています。当施設では食事係という係りが編成され、ご利用者の状況や好みを考察しています。	月水金の買い出しに伴い職員の手作り調理で温かいものは温かく、冷たいものは冷たく提供され、訪問時にも家族が胡瓜を届けてくれました。刻みやとろみ使いが増え、介助や見守りが手厚く必要となっているため、職員が椅子を動かしながら個々に対応しています。	費用の括りについては、食費なのか食材費なのか、あらためて見直すことを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や排せつについて見やすい表にし、毎日チェックしています。収集した情報は主治医に提示して適切な支持をいただき支援に役立てています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後確実に口腔ケアを実施し、就寝前には義歯洗浄剤にて清潔を保っています。口腔ケアはおろそかにすると施設内の異臭になり、ご利用者さんも肺炎のリスクが増してしまいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導にてトイレに行き、排せつを促しています。尚週に1度来訪する看護師の指導の下、腸のマッサージなども行い排便を促しています。	フロアにある3つのトイレの内2つが車いす対応の広いスペースがとられています。車いすの人も増えていますが、それでも日中はリハビリパンツで過ごし、失禁してしまう人も定時誘導で「トイレでおこなう」ことを大切にしています。腹圧マッサージと食材で便秘対策にも取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の葉を飲んでもなかなか排せつがない方が多いですが、食事係が食物繊維が多い食材やアイスやスイカなどを工夫して提供し排便のコントロールを考えています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当施設では毎日決まった人数の入浴を行っていません。入浴の好きな方、日によって入浴をたくない方もいます。無理強いはいしないで個々のペースを大事にしています。	1階の浴室がタイル貼りで浴槽も深いため、現在すべての利用者が2階で入浴しています。医師から浴槽に浸かることを禁じられていたり、避けるようにと指示があったりして頻度は概ね週2回程度としていますが、汗をよくかく人や運動する人の希望や状況にも応じています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	当施設では就寝の時間も個々で異なります。夜遅くまでテレビを鑑賞したい方は許可をしています。居室についても火を使用するものや生き物以外は許可して今まで住み慣れた環境の下生活が継続できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者さんの服薬の状況は目まぐるしく変化していきます。当施設では受診ノートを活用し、薬の処方が変わった際にはどの職員もすぐに変更を把握できるように工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴をみながら毎日の生活ができるだけ活動的になるよう工夫しています。些細な洗い物や野菜の皮むき、施設の畑の仕事など多岐にわたります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	受診の際にはできる限り車を使用せず、散歩や車いすを押して出かけています。時間もかかりますが季節の変化や見慣れ家並みがありこれからも継続して取り組んでいきたいと思っております。	誕生月にはお茶の里や回転寿司への個別外出が実施され、メロンソーダが好きという人はコメダ珈琲で回顧の時間を過ごすことが出来ました。A DLが落ちても外出が減ることはなく、茶畑や海岸、スーパーと頻回に出ている、新茶と桜の時は年間行事に位置付けたドライブもあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	すぐ近くのお店にご利用さんと一緒に買い物をする機会を設けています。その際に可能な方はお預かりしているお金で自ら「買い物」をしていただいています。服を新たに購入する際も同様にしていきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込みも許可しており、本人の希望が叶うように配慮しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衛生管理を徹底し、移動の導線上に障害物がないように配慮しています。やさしい色合いになるようなカーテンを使用し、窓も多く自然光が十分に入るように工夫しています。	ウッドデッキで育てている向日葵の眺めがよいリビングは、日に2回の清掃で大変清潔です。ピクチャーレールが配されているため、近親者が届ける絵画や利用者作品が手軽に掲示でき、室内を明るく彩っています。	ピクチャーレールや両面テープ使用が見られる反面、画鋸が数箇所残っていて、統一性が見えません。安全面や美化的な方向性について職員間で話し合うことを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配慮をし、なるべく気の合うご利用者さんと交流できるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室についてはできる限り今まで使い慣れていたものを持ち込み可としています。テレビの持ち込みも可能であり生活しやすい環境を整えています。	ひと目で質の良品と判るカーテンは半年リースで新たな交換があり、また大きな収納スペースには簡易な引きだしやボックスを備え、衣替え用品も十分保管できます。絵画を嗜む兄妹や友人が都度風景画を入れ替えに訪れる居室もありますが、全般的に持ち込みは多くありません。	他は大変きれいだったので清掃箇所から漏れていると思われる居室の換気ファンの埃を早急に掃除することを期待します。また、カーテンの色が変わることに支障はないか、あらためて検証していただけたらと思います。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋などが分からなくなり、混乱することがないように配慮しています。また転倒事故などが起きないように施設内部の整理整頓に心がけています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295800078		
法人名	特定医療法人 駿甲会		
事業所名	グループホーム実夢静波		
所在地	静岡県牧之原市静波203-1		
自己評価作成日	平成29年7月10日	評価結果市町村受理日	平成29年8月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/zz/index.php?action_kounyo_u_detail_2016_022_kani=true&lievosvoCd=2295800078-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年7月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型施設の名前の通り、地域交流に力を入れた施設運営を心掛けております。入所後身体的に負担が大きくなってきても関連施設との連携により長く安心して生活ができます。認知症は意思疎通が困難で笑顔が少なくなりがちですが、過去の生活歴を考慮しながらご利用さんの残存能力を生かし笑顔が一つでも多くみられるように配慮しております。また入所に関係なく介護にかかわる様々な相談窓口としての施設運営を目指し、施設から地域へ、地域から施設へと地域密着型施設でしかできない活動発展に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関先の花壇には「ペンタス」「ジニア」「バーベナ」「日日草」「ブラッキカム」と植物園のように表示された様々な花々が植えられ、大きな肥料袋が鎮座する様子からは花々への愛情が伝わります。一昨年交替の管理者は町内会長や班長へと挨拶に出向き、また通勤や通院介助に車を使わず「徒歩で」を旨として薬局やスーパー、郵便局にも立ち寄り、近隣住民と会話をもつなかで「介護のことで困ったらいつでも相談ください」と都度伝え、花壇の苗木を譲ってもらうまでに交流が発展しています。来月の花火大会でも駐車場を開放して西瓜やアイスを配ることを企画しており、日々親交を深めていることが覗えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念 2295800078					
1	(1)	○理念の共有と実践 グループホーム実夢静波	「ただ介護する」ということに留まらなくしています 地域密着型施設とは何を指すための施設なのかを話し合い各フロアに提示し各職員が常に、繰り返し確認できるようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ボランティアの来訪を積極的に取り入れ地域にもこの施設がどのような施設なのかを発信しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて施設発行の新聞に活動風景の写真をふんだんに掲載し活動状況をお知らせしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営指針会議を開催し、意見交換を交わしています。地域での心配事や、介護保険の制度の質問も話し合われます。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて行政や包括支援事業者の方々にも参加をいただいています。目まぐるしく変化していく情報を共有しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしています。定期的な話し合いで分かりにくい身体拘束の行為についても話し合っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為はあってはならない行為です。施設内にカメラを設置しています。管理者が厳しくチェックしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議で行政から権利擁護の説明をいただいています。独居暮らしの高齢者が困らないように学習しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所後に「こんな話は聞いていない」など施設と、ご利用者さんと揉めてしまうのは入所前の説明不足によるものです。細かなことでもご利用者さんの立場になり説明をしています。またそれが一番揉めてしまうことを回避できる近道です。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に何気ない会話でもなるべく家族とお話をするように心がけています。何気ない会話から家族が抱えている不安や、施設に対する思いも確認できる時があります。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談にて介護報酬の話や処遇改善金について話し合う機会を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「人事考課」を導入し各職員が目標を計画し、業務にやりがいや考える力を養っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部が開催している会議に参加し、職員のスキルアップを図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のサービス事業所連絡会に参加し意見交流の場を設けています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には家族の面談を密に行い施設入所への理解を深めています。納得してご入所していただかないと後々困ることが多くなります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずご家族が抱えている不安にしっかり耳を傾け施設で取り込めることやすでに取り組んでいることを話し合い関係づくりにつとめています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談＝入所ではなく、本人の家族の置かれている状況を把握し、場合によっては他のサービスの可能性についても親身になり相談を受けております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理を一緒に作ることや、買い物のお手伝いをさせていただくなど一緒に出来ることは一緒にやっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な面会の際にもなるべく家族と会話をするようにこころがけ、最近の様子などをお知らせするようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方や、それまでのかかりつけ医との関係をなるべく切ることがないようにできる限りの支援を続けています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の活動をする場面を設け、ご利用者同士が交流できるように配慮しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も遠慮なく声掛けしていただけるように関係づくりに力を入れています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者さん一人一人に担当職員を配置し、ご利用者さんの意向の把握に努めています。その後スタッフ会議などで各職員が解決できない問題は話し合い解決できるような環境を整えています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に事前訪問をし、本人の意向や趣向を取り入れたサービス展開に力を入れています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の事前調査にてこれまでの生活スタイルをなるべく崩さないように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当職員がスタッフ会議などで意見交換を行い、それぞれの職員が忌憚のない意見交換が行えるように配慮しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細なことでも連絡ノートを活用して問題点を即座に改善できるよう努力しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決まったマニュアルでの施設生活の提供をするのではなく個々の状況に合わせた過ごし方を提供しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議やボランティアさんを活用し本人の残存能力が発揮できるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にかかっていたかかりつけ医や薬剤師にアドバイスを受けながら医療援助を受けています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度看護師に訪問していただき、健康の相談に乗っていただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院と密に連絡を取りながらなにか心配事があるときにはすぐに相談できるように配慮しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に重度化した際の対応について十分話し合い、当施設でできることや、関連施設の活用など説明しています。かかりつけ医にも同様の説明をおこない、医師の考えも参考にしながら家族への対応を考えています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の勉強会で緊急時の対応について勉強しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施しています。当施設にはスプリンクラーの設置もあり、法人内でも防災についての会議や研修を頻繁に行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ会議などで個人情報の取扱いについての重要性を十分に周知させ、職員一同個人情報の重要性に意識を持たせています。認知症で意思疎通が困難なご利用者にも人格があることを忘れず常に意識しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々のご利用者さんに担当職員を配置させ、ご利用者さんの自己決定や、自己表現できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務にブレーキをかけることがないように「今何ができるのか？」を常に考えご利用者さんの状態や天気や季節に応じてできることを考えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容は人としての動作では基本中の基本です。ご利用者が自ら整容するのは困難なため、職員が声掛けしながら丁寧に整容しています。尚服についても可能であれば一緒に買いものに出かけたり、着る服についても自ら選んでいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者さんの一番の楽しみは食事といっても過言ではありません。施設では外食の機会を多く設けています。当施設では食事係という係りが編成され、ご利用者の状況や好みを考察しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や排せつについて見やすい表にし、毎日チェックしています。収集した情報は主治医に提示して適切な支持をいただき支援に役立てています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後確実に口腔ケアを実施し、就寝前には義歯洗浄剤にて清潔を保っています。口腔ケアはおろそかにすると施設内の異臭になり、ご利用者さんも肺炎のリスクが増してしまいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導にてトイレに行き、排せつを促しています。尚週に1度来訪する看護師の指導の下、腸のマッサージなども行い排便を促しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の薬を飲んでもなかなか排せつがない方が多いですが、食事係が食物繊維が多い食材やアイスやスイカなどを工夫して提供し排便のコントロールを考えています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当施設では毎日決まった人数の入浴を行っていません。入浴の好きな方、日によって入浴をしたくない方もいます。無理強いはいしないで個々のペースを大事にしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	当施設では就寝の時間も個々で異なります。夜遅くまでテレビを鑑賞したい方は許可をしています。居室についても火を使用するものや生き物以外は許可して今まで住み慣れた環境の下生活が継続できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者さんの服薬の状況は目まぐるしく変化していきます。当施設では受診ノートを活用し、薬の処方が変わった際にはどの職員もすぐに変更を把握できるように工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴をみながら毎日の生活ができるだけ活動的になるよう工夫しています。些細な洗い物や野菜の皮むき、施設の畑の仕事など多岐にわたります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	受診の際にはできる限り車を使用せず、散歩や車いすを押して出かけています。時間もかかりますが季節の変化や見慣れ家並みがありこれからも継続して取り組んでいきたいと思っております。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	すぐ近くのお店にご利用さんと一緒に買い物をする機会を設けています。その際に可能な方はお預かりしているお金で自ら「買い物」をしていただいています。服を新たに購入する際も同様にしていきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込みも許可しており、本人の希望が叶うように配慮しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衛生管理を徹底し、移動の導線上に障害物がないように配慮しています。やさしい色合いになるようなカーテンを使用し、窓も多く自然光が十分に入るように工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配慮をし、なるべく気の合うご利用者さんと交流できるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室についてはできる限り今まで使い慣れたものを持ち込み可としています。テレビの持ち込みも可能であり生活しやすい環境を整えています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋などが分からなくなり、混乱することがないように配慮しています。また転倒事故などが起きないように施設内部の整理整頓に心がけています。		